

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入社時に理念の説明を行う。目に付く所に貼り出している。ミーティングで声掛けをしている。	運営理念の「一人一人の人生が輝くように！」に基づいて、職員一同それぞれの利用者が1日を楽しく過ごしていただけるように実践につなげています。新聞を読む、テレビ体操、ぬり絵、作品作り、お抹茶の会など、様々な工夫をしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	民生委員の方が「てのひらの会」等に声掛けしてくださり参加できていたが、現状は感染予防の為、地域の交流ができていない。	以前参加していた行事等は地域でも中止が多く、自治会行事は誘われましたがコロナ感染状況を見て参加を見合わせました。町の福祉の広場へは、皆で作った作品を出品しました。近所の方が野菜等を届けてくれるなどの交流は続いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	以前は地域との交流を重んじ福祉の集まりなども積極的に参加していたが、現状高齢者様の身を守ることに努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	感染症予防の為、現状やむを得ず中止している。	前回からの課題になっていましたが、運営推進委員会は開催されていません。	地域密着型サービスとして、引き続き推進委員を召集して、開催できない場合は利用者やサービスの状況等を報告し、意見を求めるなど書面開催を検討し、サービス向上に活かしていけることが望まれます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	感染症予防の為、現状やむを得ず中止している。	運営推進会議が開催されていないため、定期的に状況は伝えていませんが、必要に応じて連絡等を行っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の指針は利用者様ご家族に配布してある。利用者様の安全を守る介護を目指している。	「身体拘束適正化のための指針」があり、日頃から身体拘束をしないケアに努めています。月1回のミーティングでは利用者の状況報告を行い、職員間で確認・検討をしています。9月には、身体拘束をしないための対策について研修を行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	スタッフ一同月1回のミーティングにて、社会人としてケアする側のモラルなどを話し合っている。			

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	話し合いまではいかないが、ミーティングで話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご利用者様のご家族の不安や問題点を話し合い、納得していただけるよう、分かりやすく説明するように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見は聞いている。 ほぼ反映されている。	毎月ホームだよりを家族等に送り、意見や要望等があれば気軽に連絡をくれるように伝えています。受診は、ほとんどの利用者は家族等が付き添っており、その時に話をして意見等を聞いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のミーティングの場で、各職員の意見を聞き反映させるようにしている。	月1回のミーティングでは、自由に意見を出しあえる機会になっています。職員から出された意見を検討して、福祉用具や備品等の購入に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	プライベートも保てる働きやすい環境であるため、職員の希望休などが守られ、職員のやりがいの意思がみられる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修への参加はオンライン形式を取り、研修内容はミーティングで話し合ったり、各職員にも内容を配布し向上の育成を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	交流を持ちたいと思っているが、今は何もしていない。出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者様の発する言葉にしっかり傾聴したいと思う。じっくり聞くことで関わりを大切にしたいと思う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様の大事な家族をお預かりしていることを念頭に置き、不安要素を可能な限り受け入れ、ご家族様、ご利用者様とも信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご利用者様、ご家族様の希望を考慮して、そこに到達できるベストな支援を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「人生の先輩であり、大切な存在である」利用者様と共に時間の共有ができ、我が家のような雰囲気を感じていただけるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご利用者様、ご家族様と良好な関係を築けるよう、ご利用状況の送付や常に連絡を取ることに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの場所や物などを大切に、ご利用者様との会話の話題に取り入れている。	家族等とは、受診の際に会うことができおり、自宅に戻り食事をしていただくこともあります。馴染みの美容院に行かれる方もいます。新聞を読んだりテレビを見たり日々の生活をするなかで、なつかしい場所等を話題にして話をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士の関係も良好。トラブルもなく孤立せず、一緒に何かを行ったりできる支援を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所されたご家族様とは、下拭き用の布や野菜を持参してくれたりと交流があり、又ご家族様の近況を聞いたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の会話の中で、思いを聞いたり訴えがある時はしっかり傾聴させてもらい、ご家族様に相談している。	重度の利用者が多くなり、聞いても要望が出ないが増えてきました。わずかな時間でも、話す機会を作って思いを聞くように努めています。又、思いをくみ取り、昔やっていた野菜作りをして料理をするなど、喜んでもらえるように工夫しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントシートを中心に、解らないことはセンター方式の、私の家族シート・私の生活史シートを利用し、利用者様のこれまでの生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケア記録や詳細、経過記録に目を通し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人様やご家族様の希望や意向に伴い、現状に即した介護計画、必要に応じたケアを行っている。日々の変化など職員で話し合っている。	ミーティングで日頃の利用者の状況を話し合っています。3カ月毎健康状態や生活状況、行事など利用者の様子を、利用状況報告書として家族に送って意見をもらっています。モニタリングは介護計画に沿って3カ月に1回行い、実施状況や達成状況を振り返り、今後の方針を作成し介護計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	大きな変化のない生活の中でケアの統一を図り、毎日のケアでの気づきや工夫を共有しながら、実践や見直しに心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者様やご家族様の現状のニーズに、可能な限りサービスを提供させて頂くよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現状、地域の方々との交流は考えていないので、施設内で出来ることを、楽しんでいただけるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者様、ご家族様の希望でかかりつけ医を決めている。大半の方が事業所の協力機関にかかっている。歯科の往診も利用している。	家族等の希望を聞き、ほとんどが今までのかかりつけ医に受診しています。受診に際しては家族が付き添っており、利用者の状況については血圧手帳を渡す、事前に話をするなど適切に医療が受けられるように支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日の生活の中で情報や異変を共有し、速やかに報告・指示に従っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時はサマリー情報を送り、入院中の様子についてはソーシャルワーカーの方が状況説明をしてくれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期のあり方としては住み慣れた所なので、ここでは最大限出来ることはさせて頂き、ご家族様と相談の上、医療機関へ移行していただいている。	入所時に、基本的に看取りはしない方針を家族等に伝えてあります。利用者の状況を見て、他施設や病院等への移行について、主治医の意見を聞き、家族等と話し合いを進めながら支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者様急変の場合は、管理者の指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域の防災訓練に参加させていただいているが、本年度は中止となり出来ていない。	災害対策については、前回の課題にあげられています。今年度、地域の防災訓練は中止となっており、年間計画にはありますが現在施設独自の避難訓練も未実施です。	この建物が地域の避難場所となっているようですが、早急に災害対策計画を立てることが求められます。計画には想定される災害やリスク等に対して、避難方法や対策を明記して訓練を実行されることが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入職時に接遇に関する研修を実施している。施設内に掲示しており、読み合わせをしている。	倫理綱領があり掲示されています。理念の内容には「人としての尊厳を大切に・・・」の文言があり、職員の言葉遣いや言葉かけについて、日頃から気を付け、ミーティングの中で話し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の意志を尊重している。生活のリズムの中で楽しく過ごしてくれること、スタッフも楽しく関わられることを重んじている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員が利用者様の都合に合わせていくために、時間に追われず見守りをしながら、希望に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服の選択など、自分の意志で楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	月3回は利用者様と一緒に、利用者様に意見を聞きながら食事作りを行っている。梅干し、大根漬け、柿むきなど何かと利用者様と関わり、楽しく作業を行っている。	ベランダのプランターで作った野菜の収穫や下ごしらえ、皮むき、盛り付けなど職員と一緒にできることをやっています。行事食として月2回のおやつ・1回の昼食作りは、利用者の希望を聞きながら、おはぎやちらし寿司、フルーツパフェなど楽しく行っており、喜ばれています。ベランダでの食事や郷土食など食事を楽しむ工夫がされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事面において栄養のバランスは管理している。飲水量も利用者様により違いがあるが、管理できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは全職員の方、声掛け・見守りをし出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	ご利用者様の日々の変化の中で、ご本人がどうしたいかを最優先に考え、排せつ記録を行い、情報を共有し誘導時間を考慮している。	日々の排泄についてチェックして、状況を確認しながら変化に応じて支援を行っています。立位が取れない方はオムツ対応していますが、できるだけ日中はトイレでの排泄ができるように、時間を見ながら声をかけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排せつチェックを使用し、職員間で食事量、飲水量を把握し、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	一人ひとり入浴支援は違っているが、その日の体調やご本人の思いもあり、強制的にならないように支援している。	週2回は入れるように、利用者の体調や気分に応じて声をかけて、気持ちよく入って頂けるように支援しています。一般浴槽に入れない方は、1階にあるデイサービスセンターの特浴を利用しています。冬はゆず湯を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者様の個々のリズムに沿って、休養は自由にしていただいている。夜間は安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診報告の共有、目的～副作用など薬の説明書に目を通し、全職員が把握できている。また服薬の症状、変化の様子をミーティングで話し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	月に3回程行われる食事会等(特別食)は希望を聞き、役割分担で皆での作業をする事で、楽しみ感を味わえていると思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候やご本人の体調を考慮し、散歩に出掛けている。ベランダではお茶をしたり草取りをしたりして、外気に触れ楽しんでいただいている。	ホームのすぐ前が大きな神社で、春はお花見、秋は紅葉が見られ、車いすで出かけています。近所への散歩、広いベランダへ出てお茶を楽しみながらゆっくり過ごす、プランターの野菜の収穫など、遠出はできませんがベランダから見える山々の景色を見て楽しんでます。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現状では利用者様の現金の所持はない。一緒に買い物に行くことのできない中、10時のおやつはカタログで購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	遠方のご家族様からは電話をいただいたり、日々の様子のアルバムを送ってくださったりする。用事がある時は、利用者様から電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じやすい作品はテーマを決めて行い、飾る事で季節を理解して頂けるようにしている。居心地などを考え、共有空間にも身近な物を置くなどして、家のような生活感のある空間づくりの工夫をしている。	皆で季節に応じた作品(秋は柿、訪問時はクリスマスツリー等)を作り飾るなど、楽しみながら季節を感じるようにしています。トイレの場所や月日も分かりやすくなっています。加湿器があり、ほかには濡れたタオルなどを掛けて湿度が保てるように配慮しています。車いすの方もゆっくり過ごされていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室とホール、自室と居間的な区別をつけ、好きな時間に好きな事をし、十分な空間を持つ事で車イスの方でも移動しやすく、利用者様同士のコミュニケーションを作りやすい工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は利用者様のプライベート空間である。ご利用者様によってお部屋に私物やベッドなど、自由に配置し居心地よく過ごせるよう工夫している。写真や花を飾っている。	それぞれに写真やカレンダー、ぬり絵、製作した作品などを飾って、落ち着いて過ごせるようになっています。中には使い慣れたベッドや布団を、引き続き使用している利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立した生活が送れるよう、転倒防止や事故予防に危険物を排除し、生活の中での安全面は全職員が理解し、工夫して取り組んでいる。		